

# 環境社会学演習レポートについて

箕浦 一哉

## 1. はじめに

2004 年度前期の環境社会学演習では、受講者が 4 グループに分かれ、それぞれテーマを決めて調査をおこない、授業時間に中間報告をおこなってきた。最終的には調査結果をレポートにまとめ提出することが義務づけられている。このプリントは、レポート課題の狙いと、作成上の注意を示すことを目的としている。

なお、提出されたレポートは印刷して簡易製本し、小冊子として履修者全員に配布する予定である。

## 2. レポート課題の狙い

レポート課題の狙いは、**調査結果を一定の形式で他人にわかりやすく表現すること**を学ぶことである。調査・研究は、結果を論文・レポートなどに表現して完結するものである。結果を適切に表現して初めて調査研究の意義が生まれるとあってよい。

レポートは原則として**文章によって表現すること**とする。文章で表現しにくい場合に、図や表、箇条書きなどを助けとして用いることはかまわない。1年後期の授業で使用したテキストや、レポート作成について書かれた書籍などが参考になるだろう。

## 3. レポートの書式と作成上の注意

### 3-1. 書式・レイアウトと分量

本文は、**このプリントの書式に準じて作成すること**とする。用紙サイズは A4 とし、ワープロを利用する。文字の大きさは 12 ポイント、上下左右の余白は 25mm、1 ページの行数は 35 行を目安とする。コピーを配布するため、白黒を原則とする。最初のページは、最初の行にタイトルを中央揃えで記し、1 行空け、氏名（連記）、1 行空け、本文、という構成とする。

この書式で、1 グループあたりの本文（資料抜き）の分量は 5 ページ前後とする。5 枚を書くのに苦勞するようであれば、書くべき内容をきちんと書けていないということであろう。むしろたいへいは、調査した内容をすべては書ききれず、焦点を絞ってまとめる必要が出てくるだろう。限られた枚数の中で言いたいことをわかりやすく表現することも、課題の狙いのひとつである。

図表や付録資料、注記があれば、全体としての枚数がもう少し増えるであろうが、やみくもに資料を付けないようにすること。資料を直接見せるのではなく、資料から読み取ったことを整理して、文章や図表の形に自分なりにまとめるのが望ましい。

図表は本文中に挿入しても本文の後につけてもかまわないが、それぞれ「図 1」「表 1」などと通し番号をつけ、本文中に「図 1 は〇〇地域の地図である。」などと、必ず説明を記すこと。

### 3-2. レポートに書くべき内容

以下に、レポートの構成の一例を示す。

1. 調査の目的と背景
2. 調査の方法
3. 調査結果
  - 3-1. . . . . (調査の仕方によって異なる)
  - 3-2. . . . .
4. まとめ

ここで、1には、どのような目的で調査をしたのか、そのテーマにはどのような意義があるのか、を述べる。2には、その目的のために何をしたのかを述べる。3には、調査の結果わかったことを述べる。4では、調査結果を要約する。この通りである必要はないが、おおむね、このような内容がレポートには必要である。

調査結果は、大きなまとまりごとに項目を分けるのがよい。たとえば、新聞による調査と、住民への聞き取りを実施した場合、それぞれ3-1、3-2に分けて書くと読みやすいだろう。聞き取りが複数にわたった場合には、さらに細かい項目を立てるのがよい場合もあるだろう。

仮に5ページのレポートにまとめる場合、それぞれの分量のざっとした目安は、1 (目的と背景) が0.5ページ、2 (方法) が0.5~1ページ、3 (結果) が3~3.5ページ、4 (まとめ) が0.5~1ページくらいであろう。

### 3-3. 提出日

提出日は9月10日(金)の演習の授業時間中とする。提出されたレポートについては、箕浦が修正すべき点を指摘するので、修正して再提出すること。修正後の最終提出の期限は9月末とする。その後、箕浦による総括の文章をつけ、印刷・製本をおこなって、受講者に配布する。

## 4. おわりに

調べたことを文章で表現する能力は、身につけておいて損をするものではない。課題に意欲的に取り組んでもらえれば何よりである。

質問等があれば遠慮なく電子メールでお問い合わせ下さい。

minoura@yamanashi-ken.ac.jp